

November 9, 2021

【前日の為替概況】ドル円、3日続落 早期利上げ観測が後退

8日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続落。終値は113.23円と前営業日NY終値（113.41円）と比べて18銭程度のドル安水準だった。パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長の講演を控える中、全般ドル売りが先行。クラリダFRB副議長が「利上げを検討するのはまだずっと先だ」「政策金利を引き上げる必要条件は2022年末までに満たされる可能性」と発言すると、早期利上げ観測が後退しドル売りを誘った面もあった。前週末の安値113.30円を下抜けて、一時113.08円と10月12日以来約1カ月ぶりの安値を付けた。

ただ、同日安値の113.00円がサポートとして意識されると下げ渋る展開に。パウエル議長が金融政策について言及しなかったことが分ると、一時113.29円付近まで買い戻された。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.50%台まで上昇したことも相場を下支えした。

ユーロドルは続伸。終値は1.1587ドルと前営業日NY終値（1.1567ドル）と比べて0.0020ドル程度のユーロ高水準だった。パウエルFRB議長の講演を控えて、全般ドル売りが優勢になると一時1.1595ドルと日通し高値を更新した。クラリダFRB副議長の発言もユーロ買い・ドル売りを誘った。

主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時93.99まで低下した。

ユーロ円はほぼ横ばい。終値は131.20円と前営業日NY終値（131.19円）と比べて1銭程度のユーロ高水準。ドル円の下落につれた売りが先行し一時130.90円と日通し安値を付けたものの、前週末の安値130.84円がサポートとして働くと買い戻しが優勢に。ユーロドルの上昇につれた買いも入り、131.26円付近まで持ち直した。

【本日の東京為替見通し】ドル円上値が重い、FRB人事や期限迫る恒大集団の利払いに要警戒

本日の東京時間のドル円は、ここ最近の為替市場が米債市場の動きに連れることが多くなっていることで、東京時間ではトレンドを作るのは難しいが上値は限られるか。昨日の東京時間早朝は、10月中旬以来となる113円前半へドル円が戻ってきたこともあり、粛々と実需を中心にドル買いをこなした。本日も昨日よりも低い水準で戻ってきていることもあり、ドル円は本邦勢を中心に買いが入ることが予想され一定の支えとはなるだろう。しかしながら、昨日のNY時間ではインフラ投資法案が週末に可決し、3年債の入札後には米金利が上昇したのにもかかわらずドル円の頭が抑えられたことを考えると、ドル円の上値は限定的になるのではないかと思われる。

東京時間では市場を動意づけるような経済指標の発表や要人講演などの予定はないが、米連邦準備理事会（FRB）の人事や、中国の不動産企業の問題など、予定外の報道などが流れる可能性もあり気を付けておきたい。FRBの人事ではパウエルFRB議長は来年2月、クラリダFRB副議長も来年1月に任期を迎える。またクオールズFRB理事は昨日に12月の退任を発表した。前副議長だったクオールズ理事を含め、正副議長が来年初めに全員交代する可能性もあり、今後のFRB要人の去就は予断を許さない状況にある。特に、民主党のウォーレン議員を中心に、議会内では過度にウォール街に近いとされている正副議長の再任に反対をする声が多く出ている。支持率が急降下しているバイデン米大統領の動向が注目される。

中国の不動産問題だが、ここ最近話題に上ることは少なくなってきた。しかしながら、依然として非常に大きな問題なことで見逃すことはできないだろう。特に先月利払いを見送った恒大集団の利払い猶予期限を11日（日本時間では12日）に迎えることで、再び恒大集団の利払い問題が市場に影響を与える可能性もあり、報道のヘッドラインには注意を払いたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◇ 9月毎月勤労統計（現金給与総額、予想：前年比0.6%）
- 08:50 ◎ 9月国際収支速報
 - ◇ 経常収支（予想：季節調整前1兆601億円の黒字／季節調整済8472億円の黒字）
 - ◎ 貿易収支（予想：3587億円の赤字）
- 14:00 ◇ 10月景気ウォッチャー調査（予想：現状判断指数48.5／先行き判断指数57.0）

<海外>

- 09:01 ◇ 10 月英小売連合 (BRC) 小売売上高調査 (予想: 前年比 1.0%)
- 09:30 ◇ 10 月豪 NAB 企業景況感指数
- 16:00 ◇ 9 月独貿易収支 (予想: 160 億ユーロの黒字)
- 16:00 ◇ 9 月独経常収支 (予想: 170 億ユーロの黒字)
- 16:45 ◇ 9 月仏貿易収支 (予想: 71.00 億ユーロの赤字)
- 16:45 ◇ 9 月仏経常収支
- 19:00 ◎ 11 月独 ZEW 景況感指数 (予想: 20.0)
- 19:00 ◎ 11 月ユーロ圏 ZEW 景況感指数
- 21:00 ◎ 10 月メキシコ消費者物価指数 (CPI、予想: 前年比 6.17%)
- 22:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行 (ECB) 総裁、講演
- 22:30 ◎ 10 月米卸売物価指数 (PPI、予想: 前月比 0.6%/前年比 8.6%)
 - ◎ 食品とエネルギーを除くコア指数 (予想: 前月比 0.5%/前年比 6.8%)
- 23:00 ◎ クノット・オランダ中銀総裁、ブロード米セントルイス連銀総裁、講演
- 23:00 ◎ パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長、講演
- 10 日 00:30 ◎ ブロードベント英中銀 (BOE) 副総裁、議会証言
- 10 日 01:00 ◎ ベイリーBOE 総裁、シュナーベル ECB 専務理事、講演
- 10 日 01:35 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、講演
- 10 日 03:00 ◎ 米財務省、10 年債入札
- 10 日 03:30 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、ディスカッションに参加
- 欧州連合 (EU) 財務相理事会

10 日

<国内>

- 08:50 ◇ 10 月マネーストック M2

<海外>

- 08:30 ◇ 11 月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 10:30 ◎ 10 月中国 CPI
- 10:30 ◎ 10 月中国 PPI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

8日 22:21 レーン欧州中央銀行(ECB)専務理事兼チーフ・エコノミスト

「現在の状況で金融政策を引き締めることは逆効果」
「供給不足やエネルギー価格の上昇が長期化すれば、回復を遅らせる可能性」
「インフレ率は一時的に高いが、来年にかけての低下を予想する確固たる理由がある」

8日 22:41 ブラード米セントルイス連銀総裁

「失業率は来年第1四半期に4%を下回るだろう」
「2022年に2回の利上げを見込む」

8日 23:13 クラリダ米連邦準備理事会(FRB)副議長

「2022年末までにパンデミック前の雇用水準が完全に回復し、失業率は3.8%へ低下する見込み」
「利上げのベンチマークは2022年末までに満たされる可能性がある」
「インフレ期待は中央銀行にとって非常に重要であり、しっかりと評価していく」
「供給ショック、1950年代以降で最大」

9日 02:02 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁

「テーパリング完了前の利上げはないと予想」

9日 02:10 ボウマン米連邦準備理事会(FRB)理事

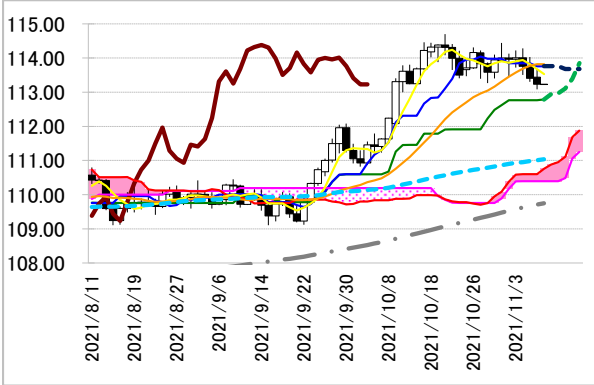
「当面、住宅市場の影響でインフレ率が高くなる可能性がある」

9日 03:40 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「現在のインフレ率の急上昇の多くは一時的なもの」
「インフレ見直しに対するリスクは今年の夏よりも大きい」
「見通しの不確実性により、利上げを遅らせたり、前倒ししたりする可能性がある」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

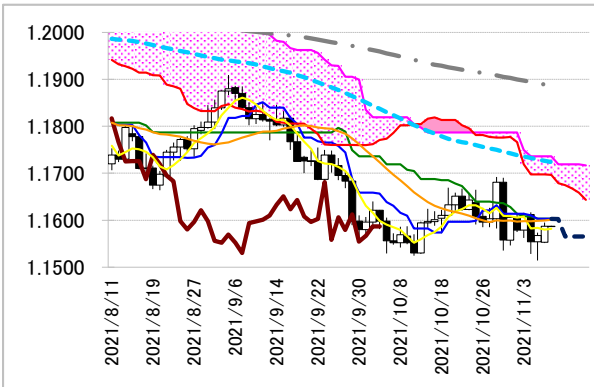


<ドル円=基準線を下抜けた際の下落進行に留意>

小陰線引け。一目均衡表・転換線と基準線に挟まれたレンジで下押し展開が続いた。

基準線 112.79 円のサポートが期待され、同線の上昇にともなう戻りを期待する状態は継続。ただ、同線を下抜けた際に日足ベースでサポートとなりそうな水準が付近に見当たらない点に注意したい。その場合、9月30日高値 112.08 円などが位置する 112 円付近が意識されてきそう。

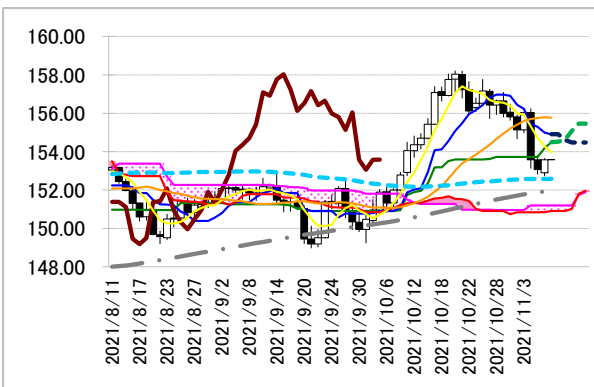
レジスタンス 1	113.76(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	113.23
サポート 1	112.79(日足一目均衡表・基準線)
サポート 2	112.08(10/11 安値、9/30 高値)



<ユーロドル=依然として転換線の低下への追従を警戒>

陽線引け。1.16 ドル回復目前まで上昇した。一目均衡表・転換線と基準線が重なる 1.1603 ドルを上回る可能性も高まってきた。4日高値 1.1617 ドルなど同大台の節目の上抜けも視野に入りつつある。しかし、明日にも低下を再開する転換線に引っ張られるような調整が、まだ警戒される状態といえる。

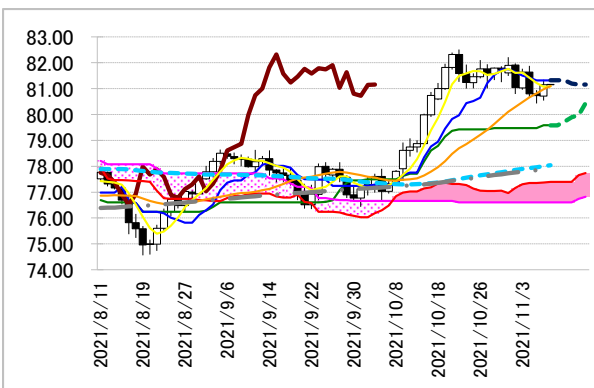
レジスタンス 1	1.1624(10/28-11/5 下落幅の 61.8%戻し)
前日終値	1.1587
サポート 1	1.1545(11/5-8 上昇幅の 61.8%押し)



<ポンド円=基準線の上昇に沿って 154 円回復を目指す>

陽線引け。152.50 円台で推移する 90 日移動平均線手前で下げ渋り、154 円回復をうかがう状況となっている。上昇傾向の一目均衡表・基準線 154.49 円の動きに沿って戻りを試す展開。ただ、現水準 154.91 円から低下が続く見込みの一目・転換線が今後の抵抗となり、押し返される可能性も念頭に置きつつ臨みたい。

レジスタンス 1	153.97(5 日移動平均線)
前日終値	153.58
サポート 1	152.98(ピボット・サポート 1)



<NZドル円=転換線の上抜け試す局面だが下値不安も共存>

陽線引け。一目均衡表・転換線 81.32 円の上抜けにトライする局面にある。低下傾向の同線付近では動きが重い。反落して 8日安値 80.54 円や 5日安値 80.43 円を下抜けて下落が加速した場合、次に支えとなりそうなのが 79 円半ばで上昇傾向の一目・基準線と、やや遠めである点は気掛かり。

レジスタンス 1	81.53(11/1-5 下落幅の 61.8%戻し)
前日終値	81.15
サポート 1	80.54(11/8 安値)

